

中国知財戦略の構造的進化：模倣大国から「知財強国」への転換

2000年代：コンプライアンスとしての知財

WTO加盟に伴う外圧対応が主で、市場にはデッドコピー（完全模倣品）が氾濫。



2010年代：「量」への執着と自主创新

補助金とKPI主導で出願数が爆発。世界一の出願大国となるも「質」に課題。



2020年代：質的転換と「金融化」

侵奪形態の高度化
「技術ロンダリング」

盗用した技術を自社名義で特許出願し、正当な権利として洗浄する手口が増加。



盗用技術 データフィルター 自社名義特許
盗用した技術を自社名義で特許出願し、正当な権利として洗浄する手口が増加。

激変する権利行使と金融エコシステム

130億円 (6.4億元)
の過去最高賠償額



Geely vs. WM Motor



組織的技術窃盗
吉利対威馬事件で、組織的な技術窃盗に対し司法が強力な抑止力を誇示。



政府によるリスク補償基金の構築
企業が知財担保融資で債務不履行になった際、政府が銀行の損失を構填。

司法・金融面における中国知財の「強化化」

懲罰的賠償
損害額の
最大5倍

故意の侵害に対する
強力な制裁措置

知財担保融資額
4,869億元
(約10兆円/2022年)

知財が「法的権利」
から「金融資産」へ

専利導航
(GB/T 39951)
国家標準の
分析手法

国家レベルで産業の
技術空白を特定・誘導